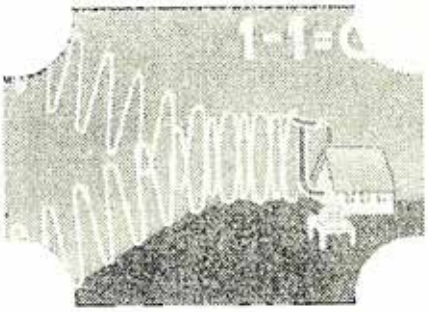
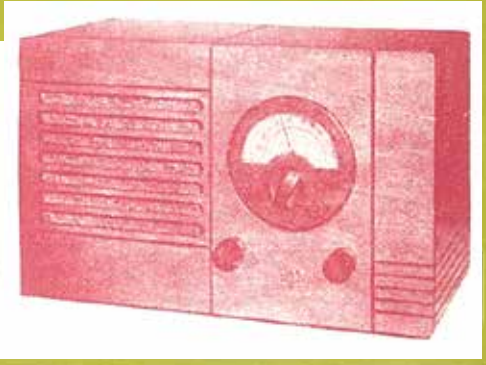
激動の昭和を証言するラジオの昭和史！

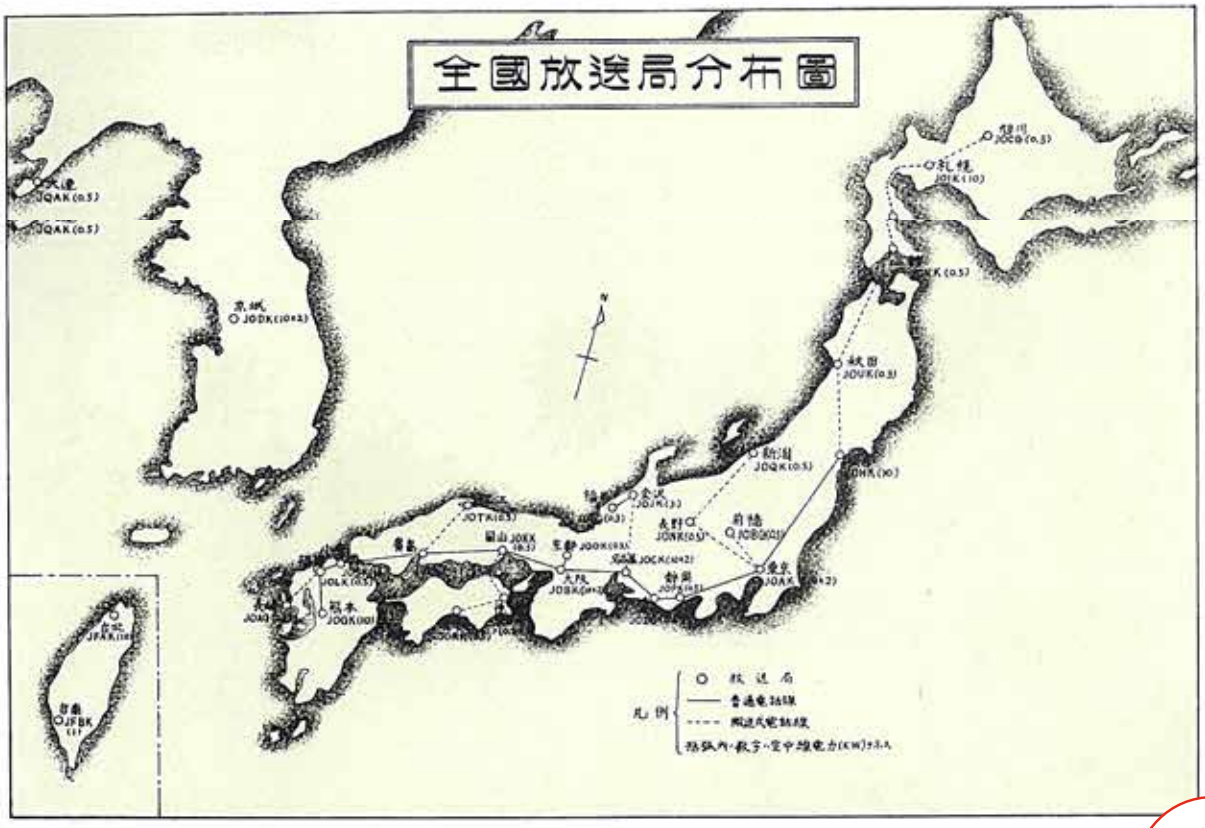
# ラジオ年鑑

全13巻

日本放送協会編








残部数組

（2023.10）

＊この案内は本書刊行時のものです。
（1989年2-9月）

大空社

# 序

無線科学は十九世紀後半より驚くべき速度を以て進歩し、二十世紀の初頭には無線電信の実用化を遂げ、テレビジョンも又既に事業化せられんとする趨勢となり、正に現今は電波時代とも称すべく、一九三〇年に於けるラヂオは実に現代文化を指導するに至ったと言っても敢て過言ではないであろう。

我国の放送事業も、この世界的潮流の顕現として大正十三年十月社団法人東京放送局の創設を画期として、急激なる発展を重ね同十五年八月社団法人日本放送協会の創立を見て以来、統一的組織の下に遂年業績は拡充され、既設七支部の活発なる運営は勿論、今後に於ても更に主要都市二十乃至三十個所に小電力放送所を増設し、且つ超大電力放送局の建設計画等も予定されつつあるが如き状況であって、現在聴取者数実に七十四万を算する普及状態となり全国的放送網の完成もいよいよその緒に就き、無線科学並にラヂオ工業界も又飛躍的進歩を告げ、社会の各方面に多大の寄与を斉して、我が協会存立の理想は今や具体化の域に到達せんとしているのである。

プログラムの種目内容も全国中継の発達、聴取区域の拡大と相俟って其の面目を刷新し、一面社会の要望に即すると共に国民思潮の指導を自覚し、昨年末より試験中の二重放送の実施及び国際的交換放送の実現等によって益々その社会的重要性を伸長して我国文化の水準を上昇せしめる傍ら、生活の実用を啓発資益し、報道・教養・慰安等の活動目的は愈々明確に社会一般に認識されるに至った。

本書は如斯き本邦無線及び放送事業界の現勢に顧み、その過去現在を展望し、来るべき盛観を待望すると共に、その状況を詳細記録してラヂオに対する正しき理解と利用を促進せんが為に編纂されたのである（以下略）。

昭和六年二月

社団法人日本放送協会

## 特色

♣本年鑑は、戦前我が国唯一の放送網を誇った日本放送協会が、独自に編集した『ラジオ年鑑』全十三巻（昭和六年版～昭和二十二年版）を収録しました。

♣本年鑑はラジオプログラムをはじめ放送技術など、放送事業の記録を網羅しています。

♣本年鑑はダイナミックな昭和の世相動向と大衆文化を知る上で、不可欠な基礎資料でラジオから見た昭和史がクローズアップされています。

♣本年鑑には、報道関係記事はもとより、演劇演芸をはじめ教育・教養、婦人・家庭、子供番組等大衆文化の幅広い分野にわたる記事を掲載しています。

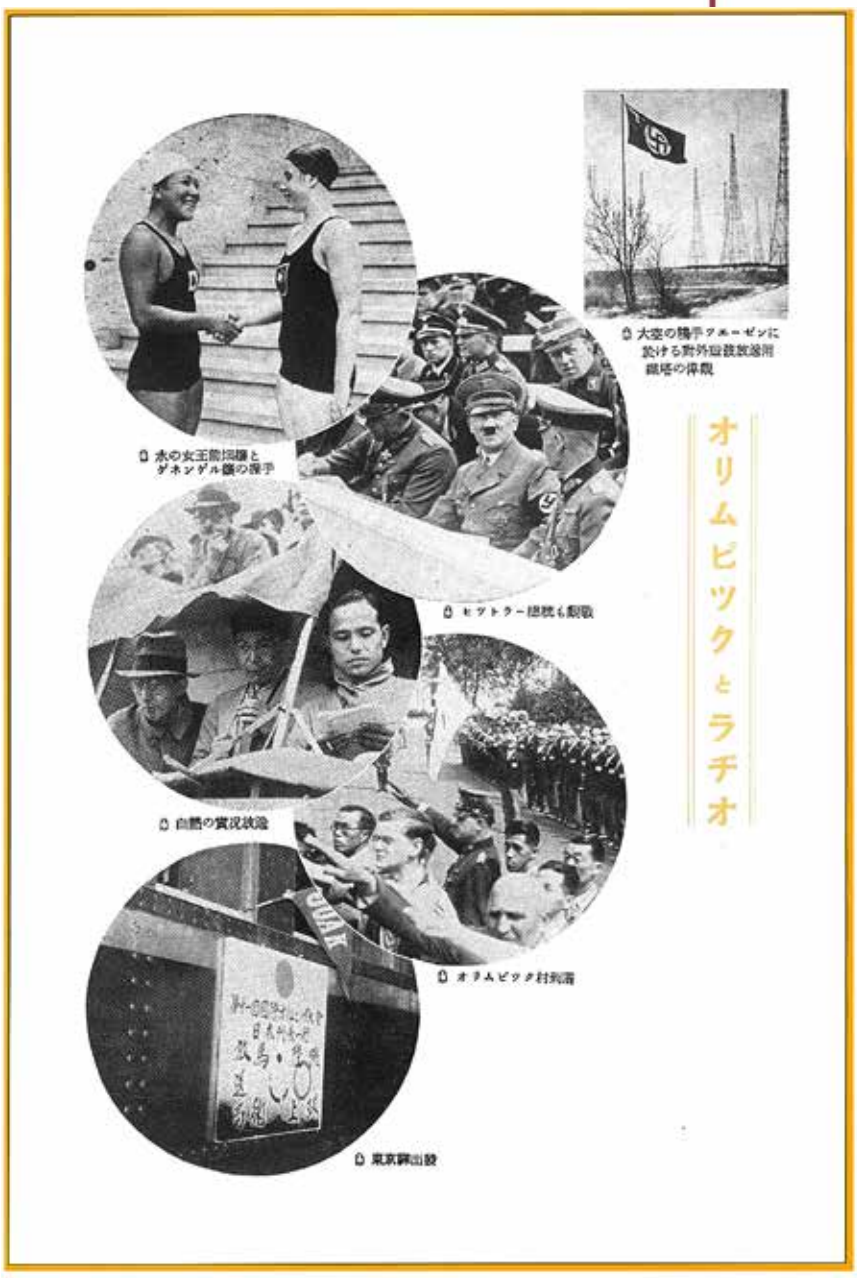
♣戦時下の外地（朝鮮、台湾、樺太、南洋、関東州、満州国）の放送事情も収録されています。

♣本年鑑を所蔵している機関は極めて少なく、今回の複刻は貴重であり意義が大きいものです。

## ■収　録　一　覧

| 書　名 | 発行年月日 |
|---|---|
| ラヂオ年鑑　昭和6年版 | 昭和6年2月25日 |
| ラヂオ年鑑　昭和7年版 | 昭和7年3月25日 |
| ラヂオ年鑑　昭和8年版 | 昭和8年6月1日 |
| ラヂオ年鑑　昭和9年版 | 昭和9年6月1日 |
| ラヂオ年鑑　昭和10年版 | 昭和10年5月15日 |
| ラヂオ年鑑　昭和11年版 | 昭和11年6月1日 |
| ラヂオ年鑑　昭和12年版 | 昭和12年5月10日 |
| ラヂオ年鑑　昭和13年版 | 昭和13年6月15日<br>（昭和13年1月～3月を含む） |
| ラヂオ年鑑　昭和15年版 | 昭和15年1月10日 |
| ラヂオ年鑑　昭和16年版 | 昭和15年12月30日 |
| ラジオ年鑑　昭和17年版 | 昭和16年12月30日 |
| ラジオ年鑑　昭和18年版 | 昭和18年1月30日 |
| ラジオ年鑑　昭和22年版 | 昭和22年9月1日<br>（昭和17年4月～昭和21年3月までの4か年間を収録） |

上　家庭より前線の父に夫に肉聲を送る松本千代乃さん（一七・八・二五）
中　軍恤遺族高少佐の母前放送局よりの第一聲（一七・三・二八）
下　バタビヤの益井領事、飯田信夫、阿部知二の諸氏と現地文化を對談する沼知寛、堀内敬三、高田保の諸氏（一七・八・二〇）




・見本縮小

## 目次の主要項目

事変で賑ぐラヂオ（昭和六年一月六日）


事変勃発当時の奉天放送局
和楽放送の三百六十五日
昭和九年版
聴取加入の百万突破
非常時局とラヂオニュース
演芸演劇の十二ケ月
語学及補習学其他の諸講座
婦人家庭向の講演と講座
「子供の時間」の一年
関東防空演習とラヂオ
昭和十年版
国防とラヂオ

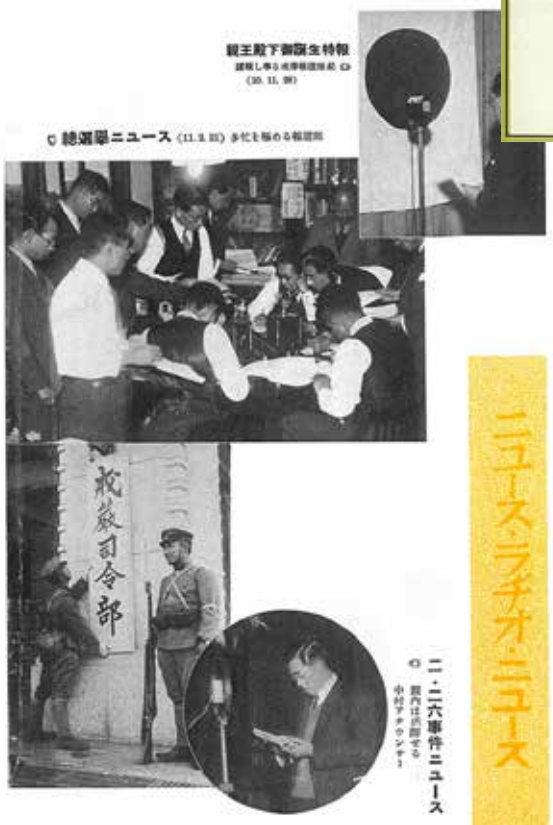

兒童劇「誘拐」を放送する成城學園々兒
—AKスタヂオにて—

昭和十六年版
紀元二千六百年奉祝放送
樺太並に委任統治下南洋の聴取状況
昭和十七年版
我国有線放送の沿革
幼児、小国民の時間
昭和十八年版
大東亜戦争と放送
昭和二十二年版
終戦と放送
終戦後の番組企画並びに編成
昭和六年版
放送事業の国民生活に及ぼす諸影響
趣味慰安放送
写真放送とテレビジョン
昭和七年版
天長節祝賀日米交換
舞台中継を顧みる
昭和八年版
在満同胞慰安の夕

ラヂオ家庭講座「簡単な幼児教育」


放送文芸の懸賞募集
昭和十一年版
全国青年ラヂオ弁論大会
昭和十二年版
オリンピック」と「ラヂオ」
昭和十三年版
支那事変とラヂオの活動
学校放送の一年
全国青年団に於けるラヂオ施設数
昭和十五年版
外地・満州・支那との連絡放送

東西客席めぐり
神楽坂演藝場より（9.6.28）




ニュース・ラヂオ・ニュース

二・二六事件ニュース
◎ 戒厳司令部を囲む中村アナウンサー

## 目次の主要項目

日本放送協會合唱團の初放送（14. 2. 11）


事変勃発当時の摩天放送局
和楽放送の三百六十五日
昭和九年版
聴取加入の百万突破
非常時局とラヂオニュース
演芸演劇の十二ケ月
語学及補習学其他の諸講座
婦人家庭向の講演と講座
「子供の時間」の一年
関東防空演習とラヂオ
昭和十年版
国防とラヂオ

上・興亡史を背にして立つた阿部新首相（14. 8. 30）


昭和十六年版
紀元二千六百年奉祝放送
樺太並に委任統治下南洋の聴取状況
昭和十七年版
我国有線放送の沿革
幼児、小国民の時間
昭和十八年版
大東亜戦争と放送
昭和二十二年版
終戦と放送
終戦後の番組企画並びに編成
昭和六年版
放送事業の国民生活に及ぼす諸影響
趣味慰安放送
写真放送とテレビジョン
昭和七年版
天長節祝賀日米交換
舞台中継を顧みる
昭和八年版
在満同胞慰安の夕

『物語物語「ものもの」』（出演者令子）（一九三四年）


放送文芸の懸賞募集
昭和十一年版
全国青年ラヂオ弁論大会
昭和十二年版
オリンピック」と「ラヂオ」
昭和十三年版
支那事変とラヂオの活動
学校放送の一年
全国青年団に於けるラヂオ施設数
昭和十五年版
外地・満州・支那との連絡放送


『銃後の誓り 国民信仰の向上はラヂオ普及より』

## 電波に開く翼賛常會

☆第一回ラヂオ常會協議
近衛首相の挨拶（中……[illegible]）
☆全國聞札幌部落常會（上）
☆大政翼賛會町内會長の婦人部會（下……[illegible]）

・見本縮小

# の言葉

## 貴重な紙に記された放送記録

東京大学新聞研究所教授　荒瀬　豊

二・二六事件の秘録を発掘したNHKテレビ特集に、反乱軍将校が占拠した官邸から電話している声が復元されていた。その内容もさることながら、執務室の電話を全部録音するという発想が、一九三〇年代の日本で既に実行されていた事実に私は驚いた。ニクソン大統領が回想録を書く日にそなえて官邸に装置していたことが裏目に出て、ウォーターゲート事件の証拠を整える結果となったのは広く知られている。戦前の放送の録音が乏しいことは、「民草」に向けての毎日の番組などそのまま残すには価しない、という先入見が支配的であったためだろう。

だからこそ、紙に記された記録が、放送については貴重このうえない。日本放送協会が放送をひとり占めしていた、という即断もはたらいて、戦前の放送を単色のものと受けとりがちだが、事実はけっして単純でない。政府は放送事業の収支見通しをつけかねて、新聞社や電機メーカーなど民間人に運用をゆだねた領域が広かった。一九三四年の協会定款改訂で、逓信省の天下り役人が中央放送局を握って以後は上意下達機関としての要素が濃くなるが、それでも大阪局などは中継番組はじめ各所に創意を発揮しつづけた。たとえばミスワカナ・玉川一郎の早口漫才など、ラジオによって爆発的な人気を実現している。

年刊された記録は、私たちの目と耳を行間の厚みで誘ってやまない。

## マスメディア時代の開幕の歴史

わたしは、『ラジオ年鑑』は〈昭和十八年版〉で終ったと信じていたので、このたびの複刻で〈昭和二十二年版〉を見て本当に驚いた。〈自昭和十七年四月――至二十一年三月〉と記されたこの一冊は、日本の子どもたちが軍国主義に駆り立てられた時期の最大の児童文化の証言であり、当時の〈国民学校〉生徒であったわたしなどは、受け止めるに何とも複雑な思いである。

## 貴重な"時代の証言"

NHK放送博物館長　禅野　圭司

「無線科学は十九世紀後半から、驚くべきスピードで進歩し、テレビジョンもすでに事業化の段階にきている。まさに現代は"電波時代"と称してもよく、実際にラジオは現代文化をリードしている――」

これは六十年前に書かれた『ラジオ年鑑』発刊の辞を、やや現代ふうにしたものである。

この時点で、誕生わずか五年のラジオが、国民生活に深くかかわりを持ち、当時の"ニューメディア"テレビも、世界に先がけて事業化に動きはじめていることがわかる。わが国の電波文化は、この時代に発展の礎を固めたのであった。

こののちわが国は、しだいに軍靴のひびきが高くなり、満州事変をへて太平洋戦争へ突入することになる。

放送は、つねに時代をうつし出す。その意味で放送事業の記録である『ラジオ年鑑』は、戦前・戦中・終戦直後の事件・世相を忠実に反映した資料として高い価値をもつものと言えよう。ただ、冊子そのものはほとんど残っていない。

# すいせん

茨城大学教授　大江志乃夫

「前畑がんばれ」、一九三六年のベルリン・オリンピックの現場からの録音放送によるこの名アナウンスは、日本オリンピック史上に不朽の名をとどめた。それはラジオが新しい媒体としての地位を確立した証明でもあった。翌年の日中戦争開始、さらに太平洋戦争の臨時ニュースがラジオの普及に拍車をかけた。戦争末期の空襲警報にいたって、ラジオは一転して生きるための必需品となった。

昭和六年に一〇〇万にたっした受信契約は、十一年に約三倍となり、十九年に約七・五倍となる。速報性と現場性を武器とする新しいマスメディア時代の開幕をつげたラジオ興隆期の基礎史料が、今回複刻された『ラジオ年鑑』である。マスメディアの発達の歴史を知るために欠くことのできないこの年鑑の複刻を、おおいに歓迎したい。

## 児童文化史の証言

児童文化研究家　上　笙一郎

近代における〈子どものための文化〉は、メディアに即して見ると、活字文化から聴覚文化へ、聴覚文化から視聴覚文化へと発達して来た。すなわち、雑誌・書物文化からラジオ文化へ、ラジオ文化からテレビ文化へ。そして昭和初年代後半から十年代にかけては、『少年倶楽部』その他による活字文化も盛んだったが、児童文化の量的主流は疑いもなくラジオ文化だったのであった。

しかしわたしたちは、活字児童文化については相当量の史的研究を持っているものの、ラジオ児童文化に関しては、『放送児童文化論』（昭和三十九年・黎明書房）ただ一冊しか持っていないのである。今日のテレビ児童文化に直接つながるラジオ児童文化の歴史を把握する上で、『ラジオ年鑑』全十三冊の複刻はたいそう有難い。

ここに刊行される複刻版の意味は、その点できわめて大きく、重い。それらが、日本の歴史のある時期の、貴重な証言を多くふくんでいるからである。

## 国民の生涯教育を考える基礎資料

立教大学教授　室　俊司

文化水準は"紙と砂糖"、また経済水準は"鉄と石油"の需要量によって示される。二十世紀の先進国の国力競争を物語る言葉だ。そして、こんにち、わたしたちはこれらの言葉に"生涯教育と情報力"を加えるであろう。

もちろん、国力競争といっても、二十一世紀に向かって、それは人類の平和共存と国際協力の課題でなければならない。その点で、衛星放送が日常化する高度情報社会の時代に、国民教育に果たすマスコミュニケーションの役割があらゆる可能性で試され、問われた第二次世界大戦をはさむ一九三〇年代のラジオ放送の歩みを十二分に検証しておくことは大いに必要である。

新聞、雑誌、映画、ラジオは古く、テレビとコンピュータが新しいマスコミ手段というのが一般の常識だが"国民の教養と放送の役割"の問題として考えるとき、この『ラジオ年鑑』は未開拓の研究分野を気づかせてくれる知識の宝庫である。それは義務教育制度や高等教育に関する膨大な史料にも匹敵する基礎資料である、といっても過言ではない。

老若男女の自立と共生をめざす生涯学習の時代に、教育方面に加えて、政治、経済、社会、文化の各界から、本資料が注目され、活用されることを願いたい。

マスメディア時代の開幕を告げたラジオ興隆期の基礎史料

日本放送協会編

# ラジオ年鑑

全13巻

■収　録　一　覧

| 書　名 | 発行年月日 |
|---|---|
| ラヂオ年鑑　昭和6年版 | 昭和6年2月25日 |
| ラヂオ年鑑　昭和7年版 | 昭和7年3月25日 |
| ラヂオ年鑑　昭和8年版 | 昭和8年6月1日 |
| ラヂオ年鑑　昭和9年版 | 昭和9年6月1日 |
| ラヂオ年鑑　昭和10年版 | 昭和10年5月15日 |
| ラヂオ年鑑　昭和11年版 | 昭和11年6月1日 |
| ラヂオ年鑑　昭和12年版 | 昭和12年5月10日 |
| ラヂオ年鑑　昭和13年版 | 昭和13年6月15日<br>(昭和13年1月～3月を含む) |
| ラヂオ年鑑　昭和15年版 | 昭和15年1月10日 |
| ラヂオ年鑑　昭和16年版 | 昭和15年12月30日 |
| ラジオ年鑑　昭和17年版 | 昭和16年12月30日 |
| ラジオ年鑑　昭和18年版 | 昭和18年1月30日 |
| ラジオ年鑑　昭和22年版 | 昭和22年9月1日<br>(昭和17年4月～昭和21年3月までの4か年間を収録) |

※現代史研究に
※社会学研究に
※ジャーナリズム研究に
※児童文学・児童文化研究に
※教育学研究に
※婦人問題研究に
※余暇研究に
※演劇研究に

◆ A5 判・上製・クロス装

**第 1 回配本**　全 7 巻（昭和 6 ～ 12 年版）［大空社 1989 年 2 月刊］
4-87236-054-0　　定価 104,500 円（本体 95,000 円＋税 10%）

**第 2 回配本**　全 6 巻（昭和 13 ～ 22 年版）［大空社 1989 年 9 月刊］
4-87236-055-9　　定価 93,500 円（本体 85,000 円＋税 10%）

**全 13 巻　揃定価 198,000 円**（本体 180,000 円＋税 10%）

**残部数組**
（2023.10）

販売：**大空社出版**
〒 114-0032 東京都北区中十条 4-3-2
TEL 03-5963-4451
FAX 03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp
www.ozorasha.co.jp

お取扱い